
三沢の栄光のロード(終結編)

トリシューラ∞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

三沢の栄光のロード（終結編）

【Nコード】

N3950X

【作者名】

トリシューラ∞

【あらすじ】

三沢大地といえば、空気という異名で知られている男の事だがこの作品での彼は、そんな三沢大地とはまるで違うそう、彼は英雄となる・・・

パソコンを変えたのでユーザーも変わっています
その辺よろしくお願いします

旅人の正体！究極のドラゴン（前書き）

どうもトリシューラ∞です

いきなりですが・・

前作と同じ事をしでかしてしまいました

2度に渡るユーザー変更・・

今まで応援して下さった皆さんには本当に申し訳ありません

私自身成長していかなくてはいけないと実感しました

この三沢の栄光のロード（終結編）は、三沢大地が成長していく物語です

私自身も三沢のように（？）成長していきたいと思っていますので、これからも応援願います。

ちなみに、前作はコチラ←

<http://ncode.syosetu.com/n7149v/>

旅人の正体！究極のドラゴン

「マリク・イシュタールか・・・」

「奴はこの村を支配してる、村長って言えるレベルじゃない」

「・・・行くか」

「えっ」

「マリクの所へ行くぞ・・・」

「あっ、ああ・・・」

「うわあああ！」

マリク部下 ライフ0

コッコッコッ・・・

「来たか、真のデュエリスト・・・」

「・・・マリク、デュエルだ」

「その前に名を聞こうか」

「・・・俺はヘルカイザー亮」

「ヘルカイザー・・・覚えておこう」

「気をつけろ、アイツは半端なく強い！」

「分かっている、さあいくぞ！」

デュエル！ ヘルカイザー亮VSマリク

「先攻は貰おう、俺のターン！」

ヘルカイザー亮 手札6 ライフ4000

「俺はプロト・サイバー・ドラゴンを召喚！」

攻撃力 1100

「さらに魔法カード、融合を発動！」

「融合か・・・面白い、それぐらいじゃないとなあ・・・」

「フィールドのプロト・サイバー・ドラゴンと手札のサイバー・ドラゴンを融合！」

「・・・」

「現れよ、サイバー・ツイン・ドラゴン！」

攻撃力 2800

「カードを1枚伏せ、ターンエンド!」

「俺のターン・・・!」

マリク 手札6 ライフ4000

「俺は永続魔法、生還の宝札を発動するぜ」

「生還の宝札!? あれは禁止カードのはず・・・」

「俺の闇の力を持てれば、禁止カードを使うなど造作もない」

「デメエ、卑怯だぞ!」

「レン、俺は別にいい・・・寧ろこの方が楽しめる」

「(デュエルを楽しんでる・・・)」

「俺はおろかな埋葬を発動して、デッキから最強の神・・・ラーの翼神龍を墓地に送る!」

「ラーの翼神龍!? デュエルモンスターズ史上最強と言われる神のカードか!」

「さらに魔法発動、死者蘇生!」

「まさか・・・ラーを!」

「蘇れ! ラーの翼神龍!」

攻撃力？

「攻撃力が無いだと・・・？」

「生還の宝札の効果で、カードを1枚ドロースる！」

「神のカード・・・どんな効果を持っているんだ？」

「ラーの効果を発動する」

「・・・」

「ラーの攻撃力は、指定した相手のモンスターの攻撃力の倍となる
！」

「何っ！」

「俺はサイバー・ツイン・ドラゴンを選択するぜえ」

「攻撃力・・・5600だと！？」

「ラーの翼神龍の攻撃！」

「来るぞ、カイザー！」

「ゴッド・ブレイズ・キャノン！」

「ぐおっ！」

ヘルカイザー亮 ライフ4000↓1200

「ターンエンド！」

「くっ・・・」

「ラーは効果の対象にならず、効果でも破壊されない・・・まさに無敵の神だ！」

「カイザー・・・」

「レン・・・俺は、負けない」

「だよな、アンタなら勝てるって信じてるぜ！」

「フッ・・・俺のターン！」

ヘルカイザー亮 手札4 ライフ1200

「俺は魔法カード、サイバー・オーバー・フュージョンを発動！」

「サイバー・オーバー・フュージョン！？」

「このカードの発動時、デッキから融合召喚を行う魔法カードをゲームから除外する」

「何故だ・・・」

「このカードの効果は、除外した魔法カードと同じになる！俺は、パワー・ボンドを選択！」

「パワー・ボンドだと・・・？」

「パワー・ボンド、最強の融合カードだぜ！」

「俺は手札のサイバー・ドラゴン・ドライと、サイバー・ドラゴンを融合召喚！」

このカードは手札に存在する限り、カード名を「サイバー・ドラゴン」として扱う

「現れろ、サイバー・エンド・ドラゴン！」

攻撃力 4000

「すげえぜ！」

次回予告

「俺が空気から抜け出すためには、何か足りない・・・」

次回 「足りないもの」

サイクリング・デュエル アクセラレーション！

旅人の正体！究極のドラゴン（後書き）

読んでいただきありがとうございました！
これからもよろしくお願いします。

足りないもの(前書き)

遂に三沢の過去が、明かされる・・・？

※この物語はフィクションです。

足りないもの

「すげえぜ！」

「馬鹿なあっ！」

「パワー・ボンドの効果により、サイバー・エンドの攻撃力は倍となる」

「くっ・・・」

「さらにサイバー・オーバー・フュージョンで、融合召喚したモンスターが2回攻撃を可能とする」

「くそおっ！」

「お前の負けだ・・・マリク！」

「お、俺はここで消える訳には・・・！」

「サイバー・エンド・ドラゴン！エターナル・エヴォリュション・バーストオ！」

「ぐわあっ！」

マリク ライフ4000↓0

「カイザーの勝ちだぜ！」

それからしばらくして・・・

「ありがとうございます！貴方はこの村の英雄です！」

「礼はいい・・・それよりも俺は再び、旅に出なくてはならない」

「カイザー・・・」

「お前には期待しているぞ、レン」

「ああ、俺はこの村一の情報屋で、カイザーの1番弟子だぜ！」

「フツ・・・達者でな」

彼は再びゲームを進める・・・

同時刻、とある場所では

「ほう・・・丸藤亮がマリクの残影を・・・」

「次は誰が誰を倒すと思いますか？」

「・・・分かる訳がないだろう」

その頃、三沢達は

「腹減った・・・」

「我慢しなさい、三沢君」

「しかし・・・」

「そうっすよ、三沢君」

「少しは我慢するドン！」

「でも・・・！」

「諦めるな、三沢」

「遊星まで・・・」

その時だった

「ゲームノシンコウジョウキョウヲツタエル」

「何だ！？」

「マルフジリヨウが、ヒトリメノシカクヲオシタ」

「1人目の刺客を!？」

「さすがはカイザー・・・」

「サテ、ツギハダレガシカクヲオスノカ・・・ミモノダナ」

プツン

「消えた・・・」

「それにしても、今の声・・・なんだか聞き覚えがあるような・・・」

「それよりも、飯だドン!」

「結局かよ!」

そして、遊星の作った料理を食べ始めた

「旨いドン!」

「おいしいわ」

「遊星君って、料理うまいんだね!」

「そうか・・・?」

「こんな所でも料理を作れるとは・・・すごいな遊星」

「そうか・・・？」

「謙遜するなよ、な？」

「・・・ありがとう」

「・・・」

食べている内、三沢は過去を思い出す

「母さん・・・」

回想に入ります

「おかわり！」

「よく食べるわねえ」

「だって美味しいんだもん！」

「うふふ・・・嬉しいわ、大地」

だが、彼は知らなかった・・・自分の母親が目の前からいなくなるとは

「ただいまー！」

三沢が8才の時の事だった

「おかえり・・・」

「どうしたの、母さん何だか元気ないよ」

「うん・・・」

「母さん・・・」

その日は何も無かった・・・だが、次の日の朝・・・

「おはよう・・・あれ？」

いつもなら起きて、朝食の準備をしている母親が、いない

「どこ行ったのかなあ・・・」

それから何日も過ぎたが、母は戻らない

「まさか・・・」

彼は最悪の事態を予測した

「この展開は・・・」

そう・・・

「バーン！」

実は、隠れてただけである

「ごめんねー・・・面白そうで」

それからというものの、三沢は周りの人を空気と捉え始めた

「皆、空気なんだ・・・」

そして、彼自身の方が空気になってしまった

「思い出ただけで・・・ブルルル」

「どうした、三沢？」

「いや、何でもないさ」

「そうか」

彼は空気男になったため、その原因の母が作る物に恐怖を感じていたのだ

「・・・思い出したくない」

すると

「いたのか、三沢大地」

「お前は・・・カイザー！」

「カイザー？」

「遊星は知らないよな」

三沢は説明した

「なるほど・・・」

「三沢、お前に足りないものは戦術の豊富さだ」

「戦術の豊富さ？」

「そう、お前のデッキに足りないもの・・・それが戦術だ」

「戦術・・・」

「このカードをやる、これで戦術を強化しろ」

「・・・ありがとう、カイザー」

「俺は俺で旅を続ける、頑張れよ翔」

「お兄さん・・・無理はしないでね」

「ああ」

「また会おうな」

カイザーは行ってしまった

「よし、俺達も行くか！」

次回「社長の意地」

サイクリング・デュ（r
y

足りないもの（後書き）

更新がかなり遅れました、すいません。
それと適当な脚本も改善します・
これからお願いします。

社長の意地（前書き）

遂に社長が現れる！

今回からデュエルの文の形式を少し変更しました
それではどうぞ！

社長の意地

A I R G A M E ルール説明

●舞台となるのは、とある異世界（ゲームの為に用意された訳ではなく、様々な異世界を切り取り、構成された世界）

●様々な時代から集められたデュエリストが、配置された闇の僕を全員倒せばクリア

●クリア条件は他にもあるらしい

●このゲームでは、それぞれの「覚悟」が試される

ここはとあるビル

「何をしている」

「侵入者か」

「ならここで消すだけだ」

「磯野・・・？ いや、似ているだけか」

「何を言っているんだ」

「お前には消えてもらおう」

「ふうん・・・貴様らごとき、この俺に勝てると思うな！」

「面白い・・・お前達は下がっている・・・」

他の磯野？は後ろに下がる

「デュエルだ！」

？VS？

「私はトルーマン、ミスターTとも呼んでくれたまえ」

「俺の名は海馬瀬人、貴様では勝てん！」

「よほどの自信だな・・・よかろう、先攻はくれてやる」

「フン、俺のターン！」

海馬

手札6

「俺はブレイドナイトを召喚！」

星4

攻撃力1600

「このカードは、手札が1枚以下の場合、攻撃力が400アップす

る！」

「ふむ・・・」

「さらに、リバーiscardを5枚伏せてターンエンド！」

海馬

手札0

伏せ5

「私のターン」

ミスターT

手札6

「私はA・O・Jコアデストロイを召喚」

星3

攻撃力1200

「（何だあのモンスターは・・・？）」

「私はコアデストロイで攻撃する」

「攻撃力2000のブレイドナイトに攻撃しても、そのモンスターが破壊され、お前がダメージを受けるだけだぞ！」

「それはどうかな・・・」

「どういう事だ」

「コアデストロイには、光属性モンスターをバトルで強制的に破壊する効果がある」

「何っ！」

「つまり、破壊されるのはブレイドナイトのみ！」

バリーン！

「くっ・・・だがこの瞬間、罠カードを発動する！」

「むっ」

「罠カード、財宝独占を発動！」

罠カード モンスター1体が効果によって破壊された場合、相手フィールド上に存在するモンスター1体につき、自分のデッキからカードを1枚ドローする。

「この効果により、1枚のカードをドロー！」

「面白い」

「本当の勝負はこれからだ！」

その頃、三沢達は

「疲れた・・・」

「俺はまだ行けるぞ」

「すごいな・・・遊星は」

「水が・・・もうないドン」

彼らは砂漠地帯を彷徨っていた

「もう、だらしのない人達ね」

「ん・・・？」

「どうした、三沢」

「あれは・・・湖じゃないか？」

よく見ると、それは確かに湖だった

「本当っス！」

「水だ！水が飲めるドン！」

「落ち着きなさい、剣山君」

「もう我慢の限界だドン！」

剣山が湖へと走る

「ちょ・・・剣山君！」

「水だー！水、水！」

剣山が水を飲もうとしたその時だった

「（ようこそ・・・）」

「え？」

バシャン！

「剣山！」

「今のは・・・手？」

「剣山！おい、剣山！」

返事がない

「不味いぞ・・・どうすれば」

「その方々、何かお困りのようすな」

「誰ですか・・・？」

「私はこの近くの村に住んどる者です」

「それが、友人が湖に吸いこまれてしまったんです・・・信じられますか」

「ああ、それは村に来れば分かります」

「本当ですか？」

「本当ですとも、ついて来て下さい」

「剣山・・・すぐ助けてやるからな」

三沢はそう決意した

「行きましょう、三沢君」

「ああ」

次回「2つの戦い」

サイクリング（ry

社長の意地（後書き）

突然すみません

大変申し訳ありませんが、登場させる禁止カードを、皆さんに考えてほしいのです

現在の禁止・制限リスト（2011年9月1日）での禁止カードが対象になります

このカードを！という人は、ご要望のカードを、感想のページに書いて下さい

お願いします！

2つの戦い（前書き）

さて・・三沢の冒険もだいぶ進んできましたね
これからが修羅場ですが、私もクリアマインドの境地にいたるよう
に努力します（笑）

2つの戦い

そして村に到着・

「ここはオアシス村です、さあ皆さんお入りください」

「すごい活気だな」

「本当にここはゲームの舞台なのか」

「しっ・・・この舞台の人達は何も知らない・・・この事はバレないようにならないと」

「ああ、すまない」

「皆さん、こっちです」

「あ、はい」

村人の家に案内してもらう

「此処です」

「せまいですね」

「なんせ借りている家ですから・・・」

「で、あの湖の事です」

「それはね・・知らない」

「え？」

「俺はそんな事知らないんだ」

村人の姿が変化していく

「何が起こってるんだ！？」

「俺の名は藤原優介！この村のビレッジマスターだ！」

「俺達を待ち伏せしていたのか！」

「マリクを倒したのはお前達の仲間だった・・覚悟はいいだろうな？」

「三沢！」

「ああ、やるしかないみたいだ・・」

「行くぞ！」

三沢 v s 藤原

「俺のターン！」

藤原

手札 6

「俺はフィールド魔法、クリアー・ワールドを発動！」

「クリアー・ワールド？」

「このカードは、俺のエンドフェイズに500ポイント払わなければ破壊される」

「頼むぞ・・・三沢」

「僕はカードを2枚セット、そしてクリアー・ワールドの効果で500ポイント払うよ」

藤原

LP3500

「俺はこれでターンエンドだ」

「俺のターン！」

三沢

手札6

「俺はライトロード・パラディン ジェインを召喚！」

攻撃力1800

「クリアー・ワールドの効果で、光属性モンスターが存在する時、お前は手札を公開しなければならない」

「何っ・・・しようがないな」

シャインエンジェル

カオスエンドマスター

エフェクト・ヴェーラー

聖なるバリアーミラー・フォースー

王宮のお触れ

「いい手札だな・・・罨発動！マインドクラッシュ！」

「不味い！」

「俺はエフェクト・ヴェーラーを選択！」

バキューン！

「くっ・・・すまない、エフェクト・ヴェーラー」

「俺には分かるんだよ、お前の戦術の全てが！」

再び、その頃・・・

「私はカードを1枚伏せて、ターンエンド」

ミスターT

手札4

伏せ1

「俺のターン！」

海馬

手札2

伏せ4

「俺はサイクロンを発動し、貴様の伏せカードを破壊する！」

「残念だ、罠発動！ア－リー・ア－マー！」

「何っ、チェーン発動だっ」

「このカードを発動したターン、私のコントロールするA・O・Jは戦闘及びカードの効果では破壊されない！」

「・・・その程度の効果なら、俺の勝ちだ！」

「何」

「リバースカード、オープン！エフェクト・フォース！」

相手フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターを守備表示にし、その効果は無効にする。このカードを発動するターン、自分はモンスター1体でしか

攻撃できない。

「まさかっ」

「お前のコアデストロイを守備表示に変更する！」

「コアデストロイを守備表示にして、何をする気だ」

「まだだ！リバーiscardオープン、おろかな欲望！」

魔法カード お互いに自分のデッキからモンスター1体を選択し、墓地に送る。このカードを発動するターン、自分はモンスターを通常召喚する事はできない。

「俺は青眼の白龍を墓地に送る！」

「私はA・ボムを墓地へ」

「さらに罠発動！リビングデッドの呼び声！」

「そうか・・・だから青眼の白龍を墓地に送るような事をしたのか」

「俺は青眼の白龍を特殊召喚する！」

星8

攻撃力3000

「来たな・・・ブルーアイズ」

「さらに罠カード発動、伝説の鏡！」

罨カード 自分フィールド上に表側表示で存在するレベル8以上の通常モンスター1体を選択して発動する。選択したモンスターと同名カードを、2体までデッキから特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターは攻撃できず、エンドフェイズ時に破壊される。

「ブルーアイズが・・・3体!？」

「手札から貫通融合を発動!」

魔法カード 自分フィールド上に存在する、融合モンスターによって決められた素材を墓地に送り、エクストラデッキからその融合モンスター1体を特殊召喚する。

この効果で特殊召喚したモンスターが守備表示モンスターを攻撃した場合、このカードの攻撃力がそのモンスターの守備力よりも高い場合、その差の数値分のダメージを与える。

「現れよ! 青眼の究極竜!」

攻撃力4500

「馬鹿な」

「これで終わりだ! いけ、ブルーアイズアルティメット!」

「ぐわああああ!」

ミスターT

LPO

「フン・・・」

「次は私が相手だ！」

こうして海馬はデュエルをしていくが・

「くっ・・・俺の勝ちだ（きりがいな・・・）」

「次は私が・・・」

その時、空間に穴が開き・・・

「うっ、わああっ！」

「誰だ」

「痛ってえー」

「『此処はどこなんだ、遊馬』」

「知らねーよ！」

「（1人言か・・・？）」

「誰であろうと、あのお方には近付けません」

ミスターTは本気のようにだ

次回「かつとビング V S 運命力」

サイク (r y

2つの戦い（後書き）

次回もお願いします！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3950x/>

三沢の栄光のロード(終結編)

2011年12月3日12時52分発行